

## 人権教育に関する特色ある実践事例

### 基準の観点

指導に関する校内研修の工夫改善に取り組む実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

鳥取県米子市

#### ○学校名

米子市立後藤ヶ丘中学校

#### ○学校のURL

<http://cmswebl.torikyo.ed.jp/goto-j/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】 1年生6学級、2年生7学級、3年生7学級

【特別支援学級】 2学級 【合計】 22学級

#### ○児童生徒数

【全生徒数】 641人

(内訳：1年生197人、2年生223人、3年生221人)

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

○知・徳・体の調和を図り、未来を拓く人間性豊かな生徒の育成

##### 【人権教育に関する目標】

○自らの生き方を見つめ、自問自答を繰り返しながら、場面場面に適した自己決定が出来る生徒の育成

○よき出会い、よきかかわり、よき体験を通して豊かな心を育てる

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

毎時間の授業の中に意図的に人権の視点を取り入れた「自他を大切にする学習」を積み重ねることで、知的理解だけでなく生活の場における人権感覚が育まれると考えた。そこで、研究職員会を「子どもの学び育ちに向けての方向性を明確にし、教職員がぶれることなく一丸となって学校教育目標の達成に向かう場」とし、以下の研究主題・仮説の下、取組を進めた。

##### 【研究主題】

○学び合い、かかわり合い、自立していく生徒の育成

##### 【研究仮説】

○他とかかわって、ものごとを解決したり創造したりする楽しみを実感できる学習課題を、意図的・計画的に設定することで、自らすすんで学ぶ生徒が育つだろう。

○各教科等において、よいかかわりを生み出す授業づくりを工夫することにより、自分のよさや他のよさに気づくことができる生徒が育つだろう。

○他の考えをよく聴き、自分の考えを深め表現する授業を日常化していくことで、生活の場においても他と支え合いながら自立に向かう生徒が育つだろう。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### (1) 研究委員会の在り方

全教職員の総意に基づいた研究推進を重視し、教職員を部会に分ける形ではなく「授業改善」に向かって全員で協議していく形をとった。4人グループでの参加型ワークショップ形式を基本とし、毎月1回年間約10回の会を重ねることで、職員一人一人が研究の主体者として、また、本校教師集団が研究チームとして成長していくことをめざした。研究委員会の位置づけは「プロ教師集団『チームGOTO』として成長し続ける場」とし「協働性の向上」と「専門性の向上」を柱としている。各会の目的は下記の項目からその都度設定し、共通理解を図った。

- ① 研究の目標や方向性を全教職員が共通理解する場
- ② 目標達成へ向けての具体的なアクションを考え実行への方策を打ち出す場
- ③ 問題の所在を明確にして改善を図る場
- ④ 個々の教職員が持つ知識や体験・技能をつなげ活かす場
- ⑤ お互いの力量を高めあう場



研究委員会は、50名の教職員集団のつながりを深めるために毎回アイスブレイキングから始めることとし、毎回違うファシリテーターが、つながりの深まるようなアイスブレイキングを提案するようにした。オリジナル作品も多く、お互いの豊富なアイデアを共通体験することで、『チームGOTO』として協働性を意識した研究集団づくりを実現していった。

研究協議から生み出された成果は、「授業づくりの3つのポイント」(スリーポイント)、「授業づくりの視点」(Gシート)、「授業づくりのデザイン」(Gデザイン)、「ユニバーサルデザインの環境づくり」(Uデザイン)などにまとめた。

#### (2) 「授業づくりの3つのポイント」(スリーポイント)

授業づくりの共通実践目標として「授業づくりの3つのポイント」(スリーポイント)を設定した。また、どの授業においても、「学習課題」→「学び合い」→「まとめ」と、同じ見出しシートに沿って学習のながれをつくることで、子どもがどの教科でも、落ち着き安心して取り組む姿をねらった。

##### ① 【見て聴く、静かに話す】

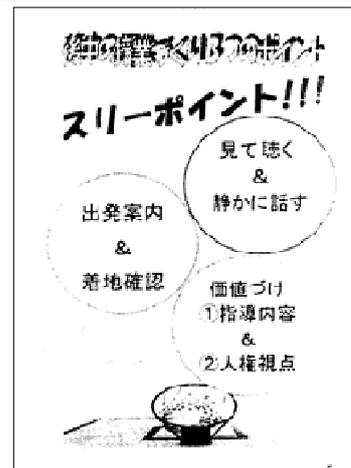
教師も子どもも、見て聴くことや静かに話すことができ、相手の思いを想像したり考えに共感したりしながら、自他のよさについて気づくことができるようにする。

##### ② 【出発案内、着地確認】

「学習課題」と「まとめ」とが連動し、どの子どもも本時の指導内容について理解できるようにする。

③ 【価値づけ：①指導内容&②人権視点】

①子どもの実現状況の価値づけをし、次時の指導につながるようにする。②人権の視点で子どもの言動やかかわりのよさを価値づけ、人権尊重の態度や技能の日常化を図る。



(3) 「授業づくりの視点」(Gシート)

授業研究会の充実を目指し、各教科等における授業実践の検証軸として、学年や教科を横断する項目を設定した「授業づくりの視点」(Gシート)を作成した。「教室環境」「学習規律」「本時のめあて」「学習展開」「板書」の5視点18項目を設定し活用している。具体例を以下に示す。(シート中、C-1等の記号は人権教育全体計画に設定した「育てたい資質・能力」)

○学習環境や学習規律が整い、各教科・領域等の授業においても、どの教師の授業でも選択肢が用意され、参加できる場面が必ずあること。

○誤答が大切にされた展開が実践されること  
○かかわりの中で、自分にはない他のよさを発見したり、自分のよさを他から価値づけてもらったりすること。

○どの子どもも、この授業時間の中で自分が何をするのかを理解し、授業終わりには何ができて何が分かったのか(その逆についても)確認すること。

(4) 「授業づくりのデザイン」(Gデザイン)

どの子どもも、授業の中で存在感を持ちたいと願い、受け入れられることに喜びを感じて、他とともに学ぶ楽しさを味わいたいと思っている。これら

のここの実現に向け、「自己存在感」「共感的人間関係」「自己選択・決定」をキーワードに、「授業づくりのデザイン」(Gデザイン)を作成し、授業づくりの骨組みを明確にした。

- ① 指導内容を明らかにし、焦点化した展開を組み立て生徒にわかりよく示す。
- ② 個での学びと班での学びを可能な限り織り込んでいくことや、個で考える時間を保障することで、班活動の中で自分の考えを話しやすくなる状況をつくるようにした。また、班活動では教具やワークシートを工夫することで、班で頭を

後藤ヶ丘中授業づくりの視点 (Gシート)

学び合い、かかわり合い、自立していく生徒の育成  
よいかかわりの中で、自他の大切さを実感し、深く考える力や豊かに表現する力に  
結びつける指導はどのようなものであればよいか?

参観日	月 日	授業者 ( )	教科 ( )	
学級名	年 組	【本時のめあて (学習課題)】		
参観者				
番号	項 目	視 点 (人権教育で育てたい資質・能力との主なつながり [ 1 ])	チェック	
1	教室環境	時節に合った掲示物や落ち着いた環境がある	【C-1】	A B C D
		教育活動の積み上げが見られる	【A-5】	A B C D
		人権教育にかかわる掲示等がある	【A-5】	A B C D
		机・イス・ロッカーの名札等に落書きがない	【A-5】	A B C D
		学級目標やスローガンが掲示されている	【C-6】	A B C D
2	学習規律	お互いの発言をよく聴いている (見て聴く)	【B-4】	A B C D
		本時のめあて (学習課題) が示されている	【A-1】	A B C D
3	本時のめあて (学習課題)	子どもが本時のめあてを理解している	【C-2】	A B C D
		本時のめあてにそって学習展開になっている	【C-2】	A B C D
		本時のめあてについての適切な評価がある	【A-1】	A B C D
4	学習展開	学習課題解決に向けて、教材や教具の工夫がある	【A-7】	A B C D
		選択肢が用意され、自己決定の場面の設定がある	【C-6】	A B C D
		かかわることで思考が深まる発問が設定されている	【C-6】	A B C D
		支援の必要な子どもへの手立てがなされている	【B-7】	A B C D
		誤答が大切にされている	【B-5】	A B C D
5	板書	本時の見通しが示されている	【A-1】	A B C D
		文字がていねいである	【A-1】	A B C D
		構造的・計画性がある	【A-1】	A B C D

★取り組みのよさと課題★

寄せ合う姿や一人一人のよさがクローズアップされる場面が生まれるようにする。

③ 教師が、人権尊重の視点で育てたい資質・能力を自覚して授業づくりを行う。

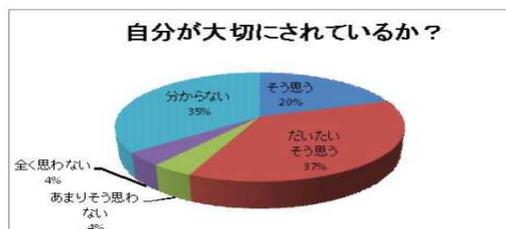
### (5) 「ユニバーサルデザインの教室環境づくり」(Uデザイン)

どの子どももが、過ごしやすく安心感のある環境の中で学習に向かうことができることが、人権尊重の基盤であると考え、「ユニバーサルデザインの教室環境づくり」(Uデザイン)を作成した。自他を大切にしている生徒の育成やお互いの学びが深まる場づくりに資する環境づくりをめざし、共通実践をしてきている。「教室前面の黒板の上の壁面には、必要なものだけを掲示している」「座席の配置は、支援が必要な子どもの状態に応じた、子どもにとって安心できる位置にしている」など、全16項目を設定し活用している。

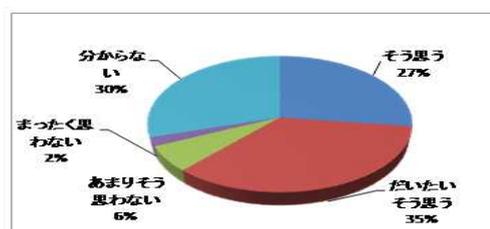
項目	内 容	ページ
1	□教室前面の黒板の上の壁面には、必要なものだけ掲示している。	
2	□黒板の両サイドの壁面には、学級目標、スローガン、時間割など年間を通して必要なものが掲示してある。	
3	□委員会の活動や各種お便りなどを掲示する場所が決められてあり、最新のものが掲示されている。	
4	□行事などのスケジュールなどを掲示する場所が決められている。	
5	□進路、適性、入構（後中人権宣言）などのコーナーが設定され、学習の進捗を振り返ることができるようにしている。	
6	□掲示物に破損や書きがけがなく、更新できちんと止めてある。	
7	□一日のスケジュールは確認しやすいよう、教室の前面の黒板や定位置に配置した補助黒板に示している。	
8	□前面黒板に、本日の出席者が示され、次の日の連絡事項や提出物の目録などが、わかりやすく書きこまれている。	
9	□座席の配置は、支援が必要な子どもの状態を配慮した、子どもにとって安心できる位置にしている。	
10	□教室前面には、提出物などがごとき、必要なものを整理と配置している。	
11	□机・イス・ロッカー・傘がけや氏名シールに破損や書きがけがない。	
12	□机の中、ロッカー、傘がけ下の整理整頓ができています。	
13	□壁紙、天井、カーテン、ドア、掃除道具、ごみ箱、教室表示、管理責任者、引き戸、蛍光灯などの破損がなく落ちない環境である。	
14	□コンセントや電気スイッチなどに破損がなく安心で安全な環境が保たれている。	
15	□特別教室には使い方や学習の進捗などがわかりやすく掲示してある。	
16	□避難経路がどの教室にもよくわかる場所に掲示してある。	

## 4. 実践事例の実績、実施による効果

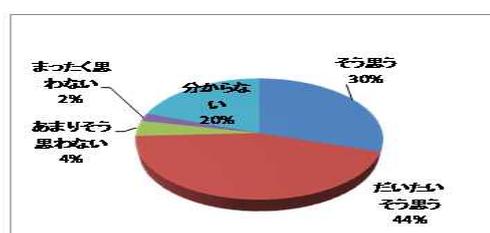
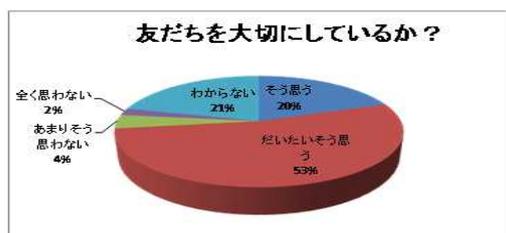
3年生 アンケート結果の推移  
1年次



2年次



そう思う 20% → 27%へ 232人中 約17人の増加



そう思う 20% → 30%へ 232人中 約23人の増加

○少しずつではあるが、自尊感情の高まりが見られた。

## 5. 実践事例についての評価

(1) 取組の成果 ～ 生徒の姿から ～

○ 全教科でスリーポイント等を共通実践したことで、生徒の中でも『見て聴く』だよ」「今日の課題は〇〇だな」などが、よく使われるようになってきた。

- 授業の流れを可視化したことで、学習に見通しを持つことができ、生徒が安心感を持ち落ち着いて授業に取り組む姿が見られるようになってきた。
- 班学習では、ブレインストーミング的に順番に発言する機会を設定するようになったことで、お互いの考えのよさに気づいたり認め合ったりする姿が見られるようになってきた。
- 分からないことを投げ出さず、「分からないから教えて」と伝え、生徒同士が楽しみながら課題解決に取り組む姿が見られるようになってきた。
- 月1回行われる生徒会専門委員会では、全学年が混じり合っているにもかかわらず、「見て聴く、静かに話す」ができるようになってきた。

(2) 取組の成果 ～ 教職員の姿から ～

- 「協力」「参加」「体験」のキーコンセプトでワークショップ形式の研究職員会を積み重ねてきたことで、「協力」「参加」「体験」を生かした子どもの活動が、授業づくりの中でもよく工夫されるようになり、授業改善（「専門性の向上」）につながった。

(3) 課題

- 生徒全員に変容があるわけではなく、まだまだ課題解決に消極的であったり、自尊感情が十分に高まらなかったり、自分の考えをうまく表現できなかったりして、日常生活でのトラブルにつながる姿も見られる。
- 現在の方向性を継続しつつ、言語活動や評価の充実を図り、生活の場における人権感覚の高まりを更に実現していくための研究を、さらに深めていく必要がある。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

米子市立後藤ヶ丘中学校

指導に関する研修の内容や方法の工夫・改善に取り組むことは極めて重要である。

この事例は、全教職員の総意に基づく研究推進を重視し、研究職員会を部会形式ではなく全員で協議する形として位置付け、指導に関する校内研修を充実させているところに特徴がある。研究協議から生み出された「授業づくりの3つのポイント」「授業づくりの視点」「授業づくりのデザイン」「ユニバーサルデザインの教室環境づくり」は、共働性を掲げた研究職員会の成果であり注目される。

また、一人一人が研究の主体者であり、教員集団が研究チームとして成長していくことを目指して参加型ワークショップを積み重ねたことにより、「協力」「参加」「体験」を生かした活動が工夫されるなど授業改善が図られ、専門性を向上させている。

各学校で指導に関する研修に取り組む上での示唆に富み、参考となる。